「新たな首都圏広域地方計画」

中心市街地活性化検討協議会の研修会

8月1日（月）、厚木市役所本庁舎4階大会議室で、厚木市議会研修会が行われました。中心市街地活性化検討協議会の研修会として全議員対象に行ったものですが、課長級以上の市職員等も一緒に受講しました。

テーマは「新たな首都圏広域地方計画について」、講師は国土交通省関東地方整備局副局長であり首都圏広域地方計画推進室室長の上田洋平氏です。

内容は、①国土計画の概要 ②高度化する交通ネットワークとインフラストック効果 ③首都圏直下型地震と安全 ④観光 ⑤対流を促すプロジェクト。

かつての全総と厚木市の関連

国土総合開発法により全国総合開発計画ができたのが1962年（一全総）、当時は高度経済成長、所得倍増が言われました。それから約10年ごとに計画は見直されてきました。三全総では安定経済成長やエネルギーの有限性、その後は人口減少・高齢化が言われてきました。同法が国土形成計画法になり、2008年には情報通信技術の発達、国民の価値観の多様化が指摘されています。そして、昨年は異次元の高齢化、巨大災害の切迫、インフラの老朽化や空き家の増加も背景とされています。

交通網、企業誘致、観光、災害、生活拠点などの視点から厚木市はどうなのか具体例を挙げながらの講義でした。

厚木と類似自治体との比較は

関東の多くの自治体はコンパクトになる意思を持っていない。これから大きくなると考えているがそうだろうか。鉄道や道路網が高度に発達した厚木市に類似の自治体は多いが、競争が激化している。行政の役割として医療・福祉などを維持できることをしっかり考えなくてはいけない。医療・福祉、働く場所、住むところが大事。

市の都市マスタープランが首都圏と似て一極集中であること、特産品のとん漬けやシロコロなどの特産品の差別化を図ること、医療・福祉が若干弱いかも、など具体的な指摘がありました。

人を対流させる原動力

人を対流させるために常に移動のモチベーション・引力が必要である。世代間で異なる価値観がある。今の若い人は動かない、消費もしない。帰る家があること、そこには医療・福祉・子育ての施策が重要。厚木はホームグラウンドなのか対流性なのか、両方なのか。

まちをつくると人が来ると思うと痛い目に合う、との忠告がありました。

最後に、まちづくりの道は開いている、努力すればできる―と会場の受講者（議員と理事者）の奮起を求めました。

話題あれこれ

厚木でささら踊り大会

7月27日（水）の午後、荻野運動公園メインアリーナで第40回相模ささら踊り大会がありました。藤沢、南足柄、海老名、秦野、綾瀬、厚木にある8つの保存会が、それぞれの地域のささら踊りを披露しました。

ささら踊りはビンササラと小太鼓を打ち鳴らして踊る女性だけの盆踊りです。ビンササラは長さ16～25㎝幅2～3・5㎝の竹などを20～30枚程を束ねたもので、この音を雨を呼ぶカエルの擬音とした農耕神事の意味があるとのこと。「相模のささら踊り」は県指定無形民俗文化財に指定されています。

詩はいろいろで、

「松になりたや大山の松に
上り下りの日よけの松に」

「蝶よとまれよ菜の葉にとまれ
菜の葉いやならよしの葉に」

「お月様のようにまんまる丸く
心持ちたい持たせたい」

「お月様さえ夜遊びなさる
若い衆の夜遊び無理もない」

「長谷の踊り子はなぜなぜこない
太鼓がないかや ささらがないか
なくば貸そう程になぜ来ぬか」

「愛甲の踊り子はなぜ出てこない
ささらがないか 太鼓がないか
ささらも太鼓も揃っちゃいるが
お腹に七月の子がござる」

と、聞けば聞くほど面白い。

ラジオもテレビもインターネットもない頃、盆踊りは娯楽であると同時に、男女の出会いや地域の人々の交流の場としての重要な役割がありました。

阪神淡路大震災
今に残る野島断層

自治体学校の前日、淡路島にわたり、阪神淡路大震災の被害を保存した「北淡震災記念公園」に行きました。

1995年（平成17年）1月17日に発生した阪神淡路大震災（兵庫県南部地震）は、M7・3、最大震度7を記録し、6千名あまりの命を奪いました。震源が淡路島の北側の海底にあったため、淡路島から阪神に伸びていた野島断層が大きく隆起し、左右のずれを生じました。その長さは10㎞に及びました。道路や畑、生け垣などが、刃物で切ったように上下にあるいは左右にずれています。

記念公園の保存館では、そのうちの140mの断層区間をそのまま保存・展示しています。自然の力に圧倒されます。

活断層からわずか1メートル離れていた住宅は、建物の被災を免れ、地震後も住んでいたそうです。1998年の公園開園に当たり、この建物を買い取って、メモリアルハウスとして保存・公開しています。

日本は大災害時代に入ったと言われます。過去の震災被害について学ぶことが重要です。